

## 利尻島におけるコシヤクシギとヒメコウテンシの初記録

村上賢治<sup>1)</sup>・小杉和樹<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒097-1201 北海道礼文郡礼文町香深村字津軽町

<sup>2)</sup> 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杓形字富士見町

### First Record of Little Curlew and Greater Short-toed Lark from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kenji MURAKAMI<sup>1)</sup> and Kazuki KOSUGI<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Tugarumachi, Kafuka, Rebun Is., Hokkaido, 097-1201 Japan

<sup>2)</sup>Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

**Abstract.** A little curlew, *Numenius minutus*, and a greater short-toed lark, *Calandrella cinerea*, were observed at Kutsugata, western Rishiri Island, northern Hokkaido in May 2010. These are the first records from Rishiri Island.

2010年5月、筆者らは利尻島西部の利尻町杓形において、これまで本島から記録がなかったコシヤクシギ *Numenius minutus* およびヒメコウテンシ *Calandrella cinerea* の2種を確認したので、以下に報告する。本報告にあたり、貴重なコシヤクシギの観察情報を提供いただいた大野陽子氏（利尻町）と撮影写真を提供いただいた宮本誠一郎氏（レブンクル自然館）に心から感謝申し上げる。

#### 1. コシヤクシギ (Fig. 1)

コシヤクシギは、ダイシャクシギ *Numenius arquata* やチュウシャクシギ *N. phaeopus* など、大きな嘴が下向きに湾曲した特徴を持つ大型シギ科に属し、シベリア地方で繁殖し、冬はニューギニア、オーストラリアで越冬する。日本には、数少ない旅鳥として渡来する（真木, 2000）が、これまで利尻島および礼文島、天売島での本種の観察例はなく（寺沢, 2000；小杉, 2010；宮本, 2010）、北海道でも観察例は少ない。

2010年5月5日、大野陽子氏が利尻高等学校グラウンド（利尻町杓形字神居）で本種と思われる1羽を観察したが、すぐに飛び立った。その後大野陽子氏と筆者らおよび宮本誠一郎氏の4名で付近を探索したところ、南方へ200m程離れた利尻町運動公園（利尻町杓形字神居）において再び確認すること



Fig. 1. *Numenius minutus* observed on May 5, 2010.

ができた。その後、筆者らは1時間ほどの目視観察を行い、小型でありながら下向きに湾曲した嘴と、その嘴が頭部の幅とほぼ等倍である本種の特徴を確認した。

## 2. ヒメコウテンシ (Fig. 2)

ヒメコウテンシは、ヨーロッパ南部、中央アジア、モンゴル、中国にかけての地域で繁殖するヒバリ科の一種である(真木, 2000)。日本には数少ない旅鳥として渡来し、日本海側の島嶼で記録されることが多い。これまで利尻島での記録はなかったが(小杉, 2010)、天売島では観察があり(寺沢, 2000)、礼文島でも1994年5月1日と1998年4月30日に記録されている(宮本, 2009; 藤巻, 2010)。

2010年5月2日、筆者らは利尻高等学校のグラウンドの芝地で、ヒバリ *Alauda arvensis* やカシラダカ *Emberiza rustica* の小群に混じり、小走りや移動しながら採餌を繰り返す本種と思われる2個体を観察した。この2個体は、その後、5月4日まで観察された。

観察された個体は、ヒバリより一回り小さく見え、嘴が太くかつ短く、ヒバリのような細身の体型ではなく、ややふっくらとして見えたことから、ヒメコウテンシもしくはコヒバリと思われた。ヒバリ類は近似種の識別が難しいため、撮影された写真を用いて、その後慎重に同定を行った。その結果、これらの個体は、眉班が明瞭であり、胸から脇にかけて薄い褐色味があるものの腹部は白く、首輪状に見える黒い縦斑も中央部で切れるなどの特徴がみられたことから、ヒメコウテンシと同定された。

本種の野外での識別は、本種を観察したことがなければ見落とされる可能性があるため、数は少ないが、春の渡り時期には旅鳥として利尻島および礼文島を通過しているものと推測された。

## 参考文献

藤巻裕蔵, 2010. 北海道鳥類目録改訂3版. 極東

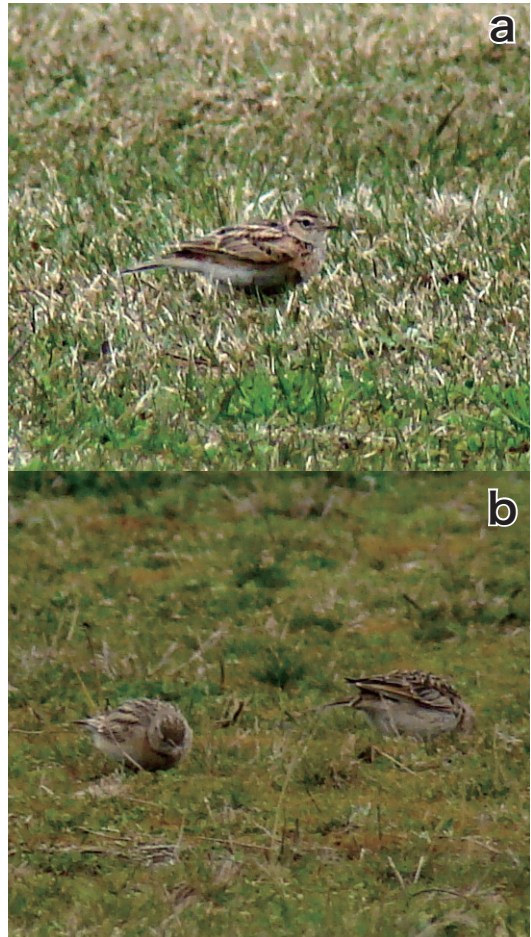


Fig. 2. *Calandrella cinerea* observed on May 2, 2010.

研究研究会. 美唄. 74pp.

小杉和樹, 2010. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.

真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590. 平凡社. 654pp.

宮本誠一郎, 2010. 礼文島の野鳥. レブンクル自然館. 自刊.

日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会. 京都. 345pp.

寺沢孝毅, 2000. 天売島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道 島の野鳥: 144-149. 北海道新聞社. 札幌.